

市場から世界をみれば

ISG 情報システム株式会社 大谷淳一



第24回「水が足りない！」②

命」と呼ばれるゆえんである。しかしその裏で、水汚染も飛躍的に深刻化させたのであった。

例えば、作物の成長促進のためにリン酸系肥料と硝酸塩が土にまかれて

中国北部では約7000万人、インド西部でもともと存在する「毒」は約3000万人の人々が地下水を汚染し、知らず知らずのうちに健康被害を受けている。高濃度フッ素は、ある地域ではもともともと存在するものだが、フッ素間の使用できる水はごくわずかである。これを改め「骨格フッ素沈着症」にて認識していただければ、多くの国が水不足の不安を抱えている。水の確保が各国の課題とな

ているのだ。その人間は「窒息」してしまい、死に至る。恐ろしいことに、この現象のことを多くの国が気づいていない。亜硝酸塩による死者数は1950年以降で約3000人に上る（水の世界地図「密やかな水汚染」より）と言われているが、気づいていない、もしくはデータをとっていない国が多いため、世界中でどれほどの死者数になるか、それは計り知れない。

いるが、それらが淡水湖や河川に流れ込むと、大量に酸素を吸収する藻と雑草を繁殖させ、魚などが呼吸できなくなつて死滅してしまう。

有機塩素系の殺虫剤は、生物のホルモンバランスなどに影響を与える

また、アジアの河川の中には、鉛の濃度がOECD諸国（ヨーロッパ諸国を中心）に日、米30カ国

硝酸塩は、実は人間にとつても有害な物質の一つである。硝酸塩が人間の体内に侵入すると、体内で化学変化を起し、亜硝酸塩になる。この物質は血液が酸素を運ぶのを増大させた。「緑の革

た殺虫剤「DDT」はかつて世界中で使用された。現在では多くの国で禁止されているものの、分解されにくいため、地下水にはヒ素が浸透しており、人口の過半数が飲料水による慢性ヒ素中毒の危険にさらさ

また、アジアの河川の中には、鉛の濃度がOECD諸国（ヨーロッパ諸国を中心）に日、米30カ国

【略歴】

1957年北

業は、化学肥料や殺虫剤を用いることで飛躍的に単位面積当たりの収穫量を増大させた。「緑の革」